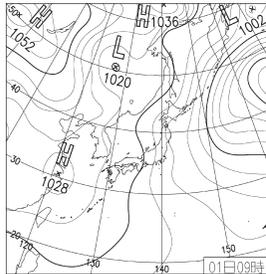


# 日々の天気図

—No. 217

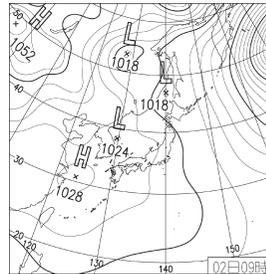
2020年2月

- ・16～18日、日本海で低気圧が発達、西～北日本日本海側を中心に大雪、大しけ。北日本では暴風雪も。
- ・23日、千島近海で低気圧が発達、北日本を中心に非常に強い風、住家破損や鉄道運休、航空便欠航。
- ・今冬の西・東日本の高温と東・北日本日本海側の少雪は史上1位。  
(気象庁予報部予報課)



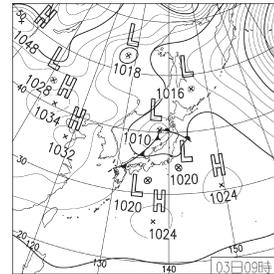
## 1日(土)暖かい朝続く

冬型の気圧配置は次第に緩む。沖縄～西日本と東～北日本の太平洋側は概ね晴れ。その他は雨や雪。北日本中心に朝の最低気温が高く4.1並の所も。茨城県など未明に震度4。



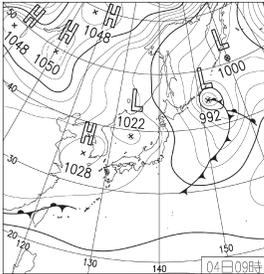
## 2日(日)大阪市、新潟市ウメ開花

西日本中心に東シナ海の高気圧に覆われる。晴れた所多いが北日本の日本海側は所々で雪や雨。全国的に暖かく、新潟市では平年より41日早くウメが開花し最早記録。



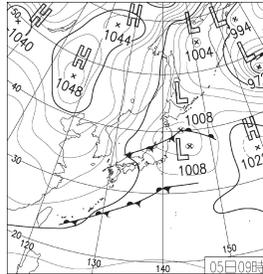
## 3日(月)那覇市でサクラ満開

北日本を低気圧が通過し、北陸～北日本は雪や雨。沖縄～九州南部も湿った空気の影響で所々雨。西日本～東北は最高気温が3月から4月並に。広島市、岐阜市、金沢市でウメ開花。



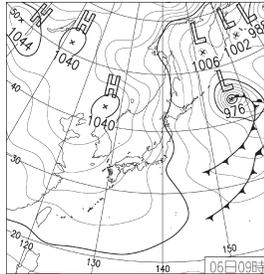
## 4日(火)西日本は穏やかな立春

日本海を東に進む低気圧や寒気の影響で北陸以北の日本海側は雪。沖縄・奄美は西からのびる前線より雨。西日本と東～北日本の太平洋側は概ね晴れ。彦根市でウメ開花。



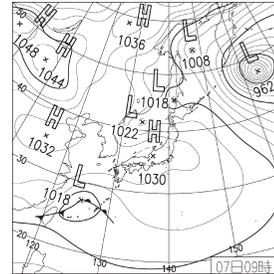
## 5日(水)北海道上空に強い寒気

北日本を低気圧が通過し冬型の気圧配置に。稚内上空約5000mに-45.6℃の、この冬一番の寒気が流入。山陰から北の日本海側は雪。新潟県関山で日降雪量60cm。佐賀、神戸で初雪。



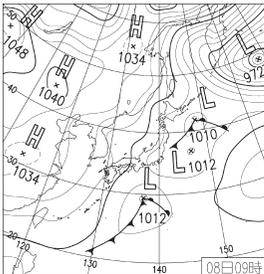
## 6日(木)今冬初めて-30℃以下に

強い冬型の気圧配置で日本海側は雪。全国的に冷え込み、北海道江丹別の最低気温-31.6℃は、全国で今冬初の-30℃以下。広島など西日本の5地点で初雪。東京は最も遅い初水。



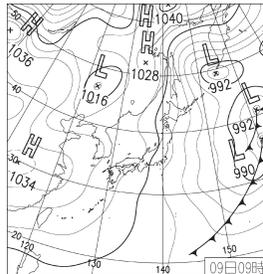
## 7日(金)北陸以北冷え込み続く

高気圧が午後には日本の東へ。北日本の日本海側は寒気や低気圧の影響で雪。南西諸島～九州、四国も東シナ海の低気圧の影響で雨。銚子で初雪。宮古島市で最も遅いサクラ開花。



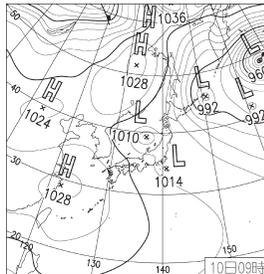
## 8日(土)奈良で初雪

日本の東と南を低気圧が東に進み、次第に冬型の気圧配置に。西日本～北日本の日本海側は寒気の影響で雪の所が多く、太平洋側は概ね晴れ。水戸市でウメ開花。



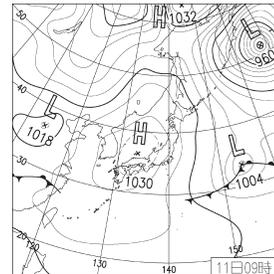
## 9日(日)網走で流水初日

北海道の上空約5000mに-40℃以下の寒気が入り、日本付近は強い冬型の気圧配置。山陰から北の日本海側は雪。北海道は冷え込み、江丹別の最低気温は-36.0℃に。高知で初雪。



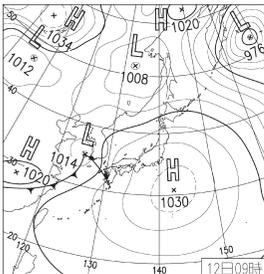
## 10日(月)名古屋で最も遅い初雪

低気圧が日本海を東南東進し、山陰～北陸は雨や雪。北日本は日本海側中心に雪。西から高気圧が張り出し、九州や四国は次第に晴れ。名古屋、岐阜、静岡で初雪。徳島で初水。



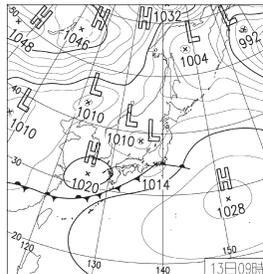
## 11日(火)網走で流水接岸初日

北陸以北の日本海側は寒気の影響で午前中を中心に雪で、北海道では大雪の所も。その他は高気圧に覆われ、日中は晴れたが、大陸の前線が東シナ海にのび、西日本は次第に曇りに。



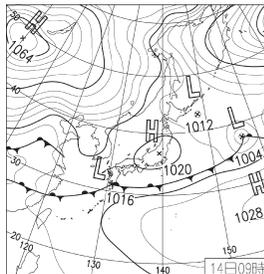
## 12日(水)全国的に気温上昇

高気圧が日本の東に移動し日本付近には南から暖かい空気が流入。全国的に気温が上がり、最高気温が4月並の所も。東シナ海から前線がのび、西日本は次第に雨。四国で春一番。



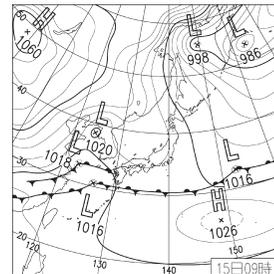
## 13日(木)気温の高い日続く

日本海と本州南岸を低気圧が東北東進。西～東日本は午前中雨や曇り。東北は夜にかけ雨や雪。各地で最高気温が高く、北海道新得11.9℃など北海道を中心に2月1位の値の所も。



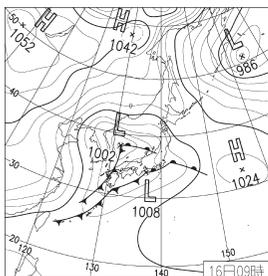
## 14日(金)沖縄では3日連続の夏日

東シナ海～本州の南に停滞する前線に低気圧が東進し、九州・四国～東日本太平洋側で雨。最高気温は沖縄県南大東27.0℃をはじめ沖縄・鹿児島県と北海道の12地点で2月1位。



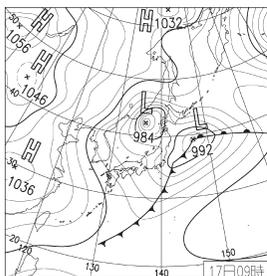
## 15日(土)西～東日本の所々で霧

停滞前線にある九州付近の低気圧や黄海の前線の影響で、西日本は曇りや雨。北海道の日本海側は寒気の影響で雪。高松、大阪、福井など、西～東日本の所々で明け方中心に霧。



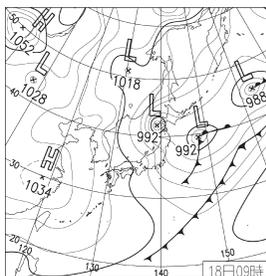
### 16日(日)宮古島市ウグイス初鳴

日本海の前線を伴った低気圧が西～東日本太平洋沿岸に停滞する前線上の低気圧の影響で、全国的に雨や雪で荒れた天気の時も。南よりの風が強まった北陸と東海で春一番。



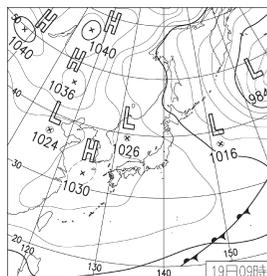
### 17日(月)九州各地で初雪

北海道の西で低気圧が発達し、北日本は雪や雨。西日本の上空約5000mには-30℃以下の強い寒気が入り、西日本も各地で雪や雨。宮崎、熊本、福岡などで遅い初雪。



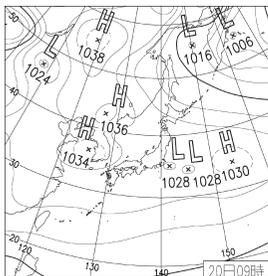
### 18日(火)鹿児島で初雪

低気圧が北日本を通過し、北陸～北日本は雪。秋田県八森で最大瞬間風速28.9m/s。西日本は強い寒気の影響で日本海側を中心に雪や雨。鳥取県大山では日降雪量42cm。



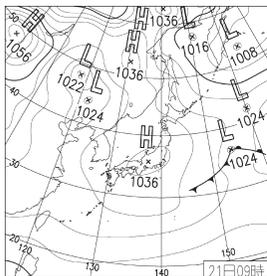
### 19日(水)下関で初霜

冬の気圧配置が緩み、西～東日本は東シナ海の高気圧に覆われる。北日本の日本海側で所々雪の他は概ね晴れ。西日本で朝方気温が下がり、下関で平年より40日遅い初霜。



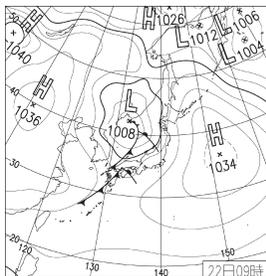
### 20日(木)高気圧が張り出す

西から高気圧が張り出し、西日本と東日本太平洋側は概ね晴れたが、上空の気圧の谷の影響で日中は所々曇り。北陸～北日本日本海側は寒気の影響で雨や雪。千葉県で震度4。



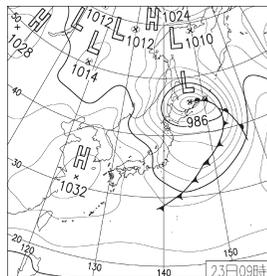
### 21日(金)高気圧に覆われる

日本付近は広く高気圧に覆われ概ね晴れて、はじめ寒気の影響で雪の降った北日本日本海側でも次第に曇りや晴れ。最高気温は全国的に高く、西～東日本では4月並の所も。



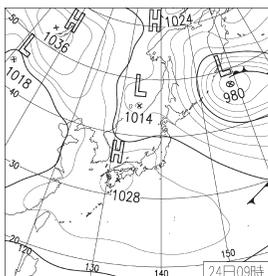
### 22日(土)九州北部、関東春一番

日本海北部で低気圧が発達。前線が本州を通過し全国的に雨や雪。西日本～東日本で南よりの風が強まり、九州北部、関東で春一番。静岡県石廊崎の最大瞬間風速32.5m/s。



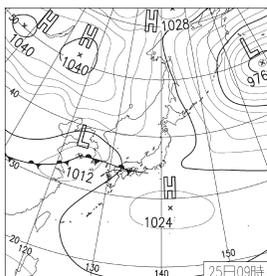
### 23日(日)北日本で暴風雪

千島近海で低気圧が発達。強い冬の気圧配置となり、北日本各地で暴風雪。北海道よりも甲では37.5m/s、札幌で28.9m/sの最大瞬間風速。北陸や東海も雨や雪。



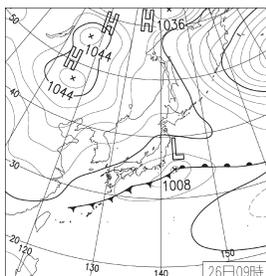
### 24日(月)西日本中心に行楽日和

高気圧が九州の西から日本の南へ移動し、低気圧が沿海州から三陸沖へ、沖縄～東日本はおだやかに晴れた所も多い。北日本は日本海側中心に雪や雨。那覇市などウグイス初鳴。



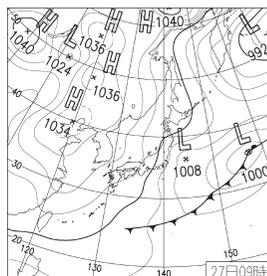
### 25日(火)西～東日本は次第に雨

黄海付近から前線を伴った低気圧がゆっくり日本付近に東進し、西～東日本は次第に雨。北日本は寒気の影響ではじめ所々雪。南西諸島は各地夏日。松山市、鏡子市ウグイス初鳴。



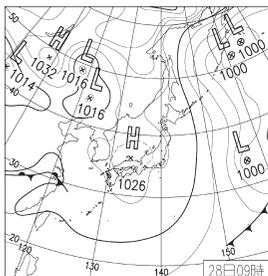
### 26日(水)低気圧は日本の東へ

沖縄～東北は低気圧や前線の影響で曇りや雨。午後は低気圧が東に離れ、西日本は次第に晴れた所も。高気圧に覆われた北海道は晴れ。鹿児島市で平年より20日遅くツバキ開花。



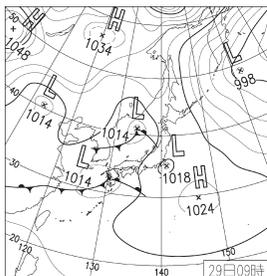
### 27日(木)東日本上空に寒気入る

日本の東に低気圧があり日本付近は冬の気圧配置。山陰～北陸、東北は雪や雨。輪島の上空約5500mに-33℃の寒気が入り、大気の状態不安定。近畿や関東の平野部も所々で雨。



### 28日(金)前橋市でウグイス初鳴

北日本の日本海側は寒気の影響で所々雪。その他は日本海の高気圧に覆われ、午前中を中心に晴れ。大陸から近づく前線の影響で、西日本は午後には次第に雨や雪に。



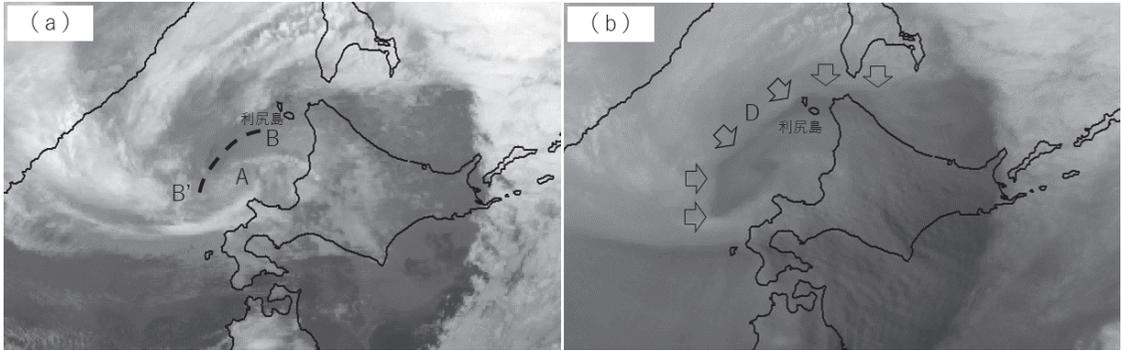
### 29日(土)九州南部で激しい雨

低気圧が西日本付近と日本海中部を東進。西日本は雨で、鹿児島県枕崎では38mm/1hの激しい雨。東日本は太平洋側を中心に次第に雨。北日本は夜には所々で雨や雪。

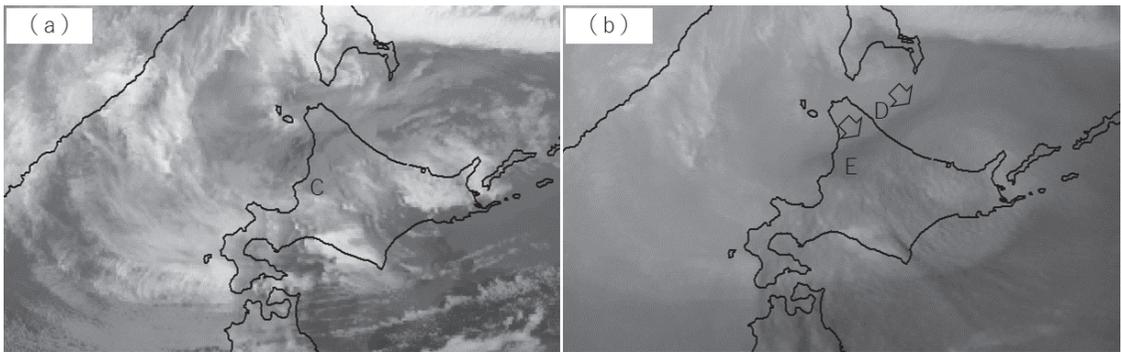


## 今月のひまわり画像—2020年2月

### 発達した低気圧に伴う北日本付近の強風



第1図 2020年2月23日03時（日本時間）の (a) 赤外画像と (b) 水蒸気画像（図中の記号については本文参照）。



第2図 23日09時の (a) 赤外画像と (b) 水蒸気画像（図中の記号については本文参照）。

2020年2月22～23日（日本時間）、日本海北部にあった低気圧が発達しながら宗谷海峡付近に進んだため、北日本では非常に強い風の吹いた所があった。福島県桜枝岐では23日11時37分に最大瞬間風速26.5m/sの南南西の風を観測し、通年の極値が更新された。また、札幌市中央区では同日12時19分に2月同極値3位の記録となる28.9m/sの北西の風が観測された。

第1図aは23日03時の赤外画像である。積丹半島の北には低気圧に対応する雲渦（A）が存在している。中・下層雲の動きなどから利尻島の南から南西方向にシアライン（破線B～B'）の存在を推測できる。この雲渦（A）は同日06時には石狩湾北部に上陸し、不明瞭化した。一方、同時刻頃、利尻島の南に下層雲からなる新たな雲渦（C）が形成された。同図bの同時刻の水蒸気画像では、宗谷岬付近から奥尻島にのびる明域と暗域との境界（Dおよび矢印）が認められるが、この境界はバウンダリーと呼ばれている。バウンダ

リーは、上・中層における異なる湿りを持つ気塊の境界である。空間的に湿りが著しく変化すれば明暗域のコントラストが鮮明となり、バウンダリーは明瞭に現れる。一般的に、水蒸気画像で現れるバウンダリーは、大気鉛直方向の運動や水平方向の変形運動により形成されるものであるが、今回は、寒冷渦を切り離させながら北海道を東進していった上層トラフの周辺の流れの一端を示しているものと思われる。第2図aは23日09時の赤外画像である。雲渦（C）は石狩湾北部に上陸後、不明瞭となった。同図bの水蒸気画像などによると、バウンダリー（D）は留萌・上川支庁付近に達した後、その南端付近に小規模な上層渦（E）が発生した。07時以降、北海道の東部では降水域が拡大し、石狩湾北部の地上風は、09時前に風向が南西から北西に大きく変化して、09時以降は気温が上昇から下降に転じ、風速も増大していた。

（気象庁予報部予報課 野中信英）